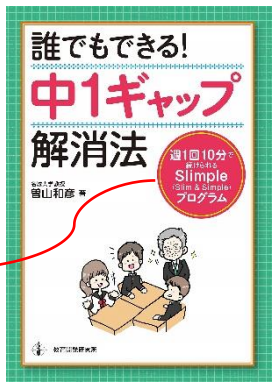
届け 世界の果てまでも

令和４年３月１日　Ｎｏ．６５　文責　校長　飯久保一男

通信タイトル「３月バージョン」

小中一貫校として「Slimple プログラム」に取り組みます



「Slimple（スリンプル）プログラム」については，以前にもこの紙面で紹介しています。これは，名城大学の曽山和彦教授が考えた人間関係改善（向上）のためのプログラムです。「Slimple」という言葉は，曽山先生の造語で，Slim（スリム）＋ Simple（シンプル）で Slimple です。

本校では，毎週，水曜日の朝の活動を「あやめっ子タイム」として取り組んでいます。このあやめっ子タイムが，Slimple プログラムそのものです。

あやめっ子タイムでは，クラスごとに２～４人組をつくって，

「アドジャン」	「質問ジャンケン」
「どちらをえらぶ」	「いいとこみつけ」

に取り組んでいます。

1　はじめに「お願いします」のあいさつを相互に交わします。
2　活動の前半は，出されたお題に対して，自分は，何が好きか・どちらが好きかなどを答えていきます。聞く方は「うなずきながら」「ニコニコ笑顔で」聞く約束です。
3　お互いの好きなものなどを聞いた後に，質問タイムを設け，なぜそれ（そのこと）が好きなのかの理由などを聞いていき，「かかわり」を深めていきます。
4　おわりに「ありがとうございました」のあいさつを相互に交わします。

上記２・３の活動には，それぞれ時間制限を設けて，全体で１０分間ほどの対話に楽しく取り組んでいます。

お互いに理解し合い，認め合い，尊重し合う，こういう子どもどうしの人間関係は，学校生活のあらゆる場面で有効に働きます。そして，授業の中の「学び合い」にも有効に働きます。この取り組みは，明るく楽しい充実した学校生活を実現すると同時に，それが子どもたちにとって，学校内の居場所をつくることにもつながり，自己肯定感を高めることにもつながるものだと考えています。教育的な言葉でいうと

このプログラムはソーシャルスキル・トレーニングであり，構成的グループ・エンカウンターでもある

となります。様々な人間関係改善プログラムの要素が取り入れられ，すでに他の多くの学校でも取り組まれています。多くの実践例が挙げられ，その効果は実証されています。

櫛形中学校区の小学校４校は，本校と同じく，あやめっ子タイムに取り組んでいます。その４校が集まった櫛形中学校でも同様に「くっしータイム（中学校ではこう呼ばれています）」に取り組んでいます。櫛形中学校区の小中一貫教育の中でも，特徴のある取り組みです。

私は何度か曽山先生の講演に参加させてもらい，Slimple プログラムを体験したことがあります。その中で，たまたま隣に座った初対面の人と対話をしました。アドジャンをやったところ，最初のお題は「行ってみたい国は？」になりました。その人の行ってみたい国を聞きました。「カンボジアです」との答えでした。うなずきながら，ニコニコ笑顔で聞きました。もう一度，アドジャンをしたところ，お題が「好きな芸人は？」となりました。私は「ティモンディの高岸です」と答えました。

そのあとはもっと詳しく知りたいことを聞く，質問タイムです。私からは当然の質問ですが，「なぜカンボジアに行ってみたいのですか？」と尋ねました。その人は「アンコールワットを見てみたいんです。」との答えでした。私には大した知識がないので「アンコールワットの魅力ってどんなところですか？」とさらに質問をしました。逆にその人からは「ティモンディの高岸が好きな理由は何ですか？」と質問が出ました。私が「“やればできる”というフレーズが好きなんです。」と答えると「私も実は高岸が好きなんです。」と返事がありました。「“やればできる”って，子どもたちに伝えるのにもいい言葉ですよね」などと盛り上がりました。そんな対話をしていると，あっという間に制限時間になり「ありがとうございました」とあいさつを交わして終わりになりました。

しばらくして，別の研修でその人を見かけました。名前は思い出せませんでしたが「あっ，アンコールワットが好きな人だ」という印象がすぐに浮かんできました。きっと，その人も私を見て，小笠原小の校長だなどと思わずに，「ティモンディの高岸が好きな人だ」と思っていたに違いないと思います。

曽山先生の講演会で，たまたま隣に座った初対面の人と，たった数分の対話をしただけで，その人のことが少しだけ理解でき，ちょっぴり親密感がわくのです。これを，いつも一緒に学習・活動している子どもたちが，その仲間と取り組むことは，さらに深く，お互いを理解し合い，認め合うことになります。こうして生まれた人間関係が，授業やクラスの取り組みに生かされることで，より深い学びへ，より親密な活動へとつながっていきます。

…今回も例によって脱線して終わりにします。「校長室での会話」についてです。

コロナ禍のため，遠慮していただくことも多くなっていますが，校長室にはいろいろな方がお見えになります。校長室に来て，用件だけ話して帰る方もいますが，話をもたせたり，つないだりする必要のあるときもあります。語弊があります。嫌がっているわけではありません。５校時の授業の外部講師が２０～３０分ほど前にお見えになり，授業開始までの間，話をすることになります。語弊があります。嫌がっているわけではありません。私は話がうまい方ではありません（「絶対にそうは見えない」と言われますが）ので，話が続く方だといいのですが，気まずい沈黙が生まれてしまうこともあるのです。そんなときは，校長室に飾ってあるものを話のネタにしています。

話題にすると盛り上がってもらえるのが左の写真です。歴代の校長先生の写真の並びの最後に，胴体がドラえもんの私の顔写真を並べています。話を振る前に気づいていただくこともあります。これは昨年の６年生を送る会の２年生（現３年生）のメッセージ動画で小道具として使われたものです。６年生を送る会が終わったあと，私にプレゼントしてくれたので，ありがたくもらって，歴代校長の最後に並べました。私が小笠原小を去った後もこのままでもいいかなぁなんてちょっと思っています。

あまりふざけた話ができない偉い方が来校したときは，左の書を紹介し，校旗の話をしています。語弊があります。本校の校旗は，記録によると

「全校児童の希望により，“東郷平八郎”元帥の揮毫による」

とされています。校旗に書かれている文字が彫刻されて校長室に飾られているのです。校旗をじっくり見る機会はまずないと思いますが，私がこれまでの勤務校で見てきた他の学校の校旗とは，見た目も雰囲気も全然違うのが本校の校旗です。

東郷平八郎の揮毫による本校の校旗

大正時代に作成されましたので「小笠原 尋常高等 小学校」となっています。